

により有用な情報を共有することができます。これはおそらくアジア地域に特に当てはまることだと考えられます。

さて、ハビタットが一年程前に開始したアフリカでの水プロジェクトについて少しお話ししたいと思います。このプロジェクトは基本的に3段階からなっています。第1段階で7か国程を選出し、各国の関心や節水の必要性をもとに、その国の特定のパートナーと確固とした協同取り決めを結びました。そして、各都市は水の重要管理や環境保護に関する情報および情報交換をもとに行動計画を策定しました。現在、このプロジェクトは実施段階にあります。都市レベルの活動とは別のプロセスもあります。私達が去った後のプロジェクトに何かを残そうと、特定の都市で専門家の能力育成を行っているところです。また、もちろん長期的には引き続き水道部門への投資を行いますが、節水的を絞ります。約18か月で結果をまとめ、それをアフリカの都市における水管理向け政策アプローチの策定に利用できればと考えています。

現在は、7都市でプロジェクトを実施しています。西部アフリカのダカール、アクラ、アビジャンの3都市、残りは東部および南部で、南アフリカのヨハネスバーグ、サンビアのルサカ、アディスアベバ、そして私が住んでいるケニアのナイロビです。各都市はこの問題に取り組むため総合的な方法での一括活動を特定し、これと平行して、ほとんどの都市は援助国から資金援助の合意を取り付けました。ハビタットは全ての政府から取り決めの覚書という形で固い言質を取っています。

最後となりましたが、ハビタットは、前回の実務者会議をきっかけに福岡市の廃棄物処理に関する技術いわゆる福岡方式の国際技術協力に関与させていただいたことを大変嬉しく思っております。また、これからも率先して都市の水管理に着手したいと真剣に考えております。お手元の情報に、私共がアフリカ地域で参加都市の関心を把握し判断するために利用したアンケートが入っています。関心のある方は声をかけていただき、このプロジェクトに関する考え等をお聞かせいただければ幸いです。

最後のスライドで、プロジェクトの特定要素についてのアイデアのいくつかを見ていただきました。最も重要なことは、都市における十分な水管理の現実的実証の必要性を感じたことです。本日は多くの事例のいくつかに耳を傾けました。アジア地域の多くの都市がその情報を共有することで大きな恩恵を受けるでしょう。最終的には情報の共有、そして優れた実践の共有が水道部門の政策改革につながると考えます。そうすれば、今まで無駄に失われていた水の大幅削減、この限りのある資源の節約が期待できるのです。皆さん、ご清聴ありがとうございました。(拍手)

座長(小田弘登) グラハム・フィリップ・アラバスターさん、ありがとうございました。ハビタットの活動について、専門家の立場から有限で貴重な水資源をいかに有効にかつ効率よく使用することについて、具体的な方策について提言していただきました。また、アフリカでの7都市での活動の実践についても報告していただきました。誠にありがとうございました。

自由討議

座長(小田弘登) 以上、4都市からの事例発表と市民ボランティア団体の活動報告及び国連報告を終えましたので、ここで自由討議を行いたいと思います。質問でも意見でも結構です。よろしくお願いたします。

川原邦治（福岡市） 福岡市水道局の川原と申します。福岡市水道事業の水の有効利用あるいは節水の一部を紹介させていただきたいと思えます。

福岡市は人口約130万人、市域面積が337km²、地理的には前面が博多湾という海に面し、後方は三上山に囲まれた福岡平野の中心に位置しています。市内を流れる河川は、いずれも中小河川で水源的には非常に乏しい状況にあります。

本市は1923年3月に、計画給水人口12万人、計画1日最大給水量15,000m³で、室見川上流の曲瀬ダムを水源とする水道が創設され給水を開始しています。

以来、他都市には例を見ない18回にも及ぶ拡張工事を重ね、現在、7ダムと遠隔導水の筑後川取水事業、すなわち福岡県の南部に位置します筑後大堰から福岡地区水道企業団を通して受水しており、5浄水場の合計の施設能力が704,800m³となっています。

しかしながら、1978年に異常小雨による大渇水を経験しました。これを教訓として、1979年2月に『福岡市節水型水利用等に関する設置要綱』を制定し、安定給水の確保に努め、さらに水資源に恵まれないため、特に水資源の有効利用や合理的な利用、あるいは節水意識の高揚などを図るなど、節水型都市づくりを進める様々な施策に取り組んでいるところです。

まず、水の有効利用の一部ですが、1966年から第1次漏水防止事業を開始して以来、漏水の早期発見あるいは修理に努めており、また道路陥没などの2次災害も未然に防止しています。

それから水の有効利用の一環として、配水管から分岐して引き込まれた給水管は個人の所有財産になりますが、メーターまでの部分に限り、1993年より自然に漏水が発生した場合には、水道局の負担で応急止水措置を行い、所有者からの申請があれば、その管の取り替えも実施しています。

また1978年の渇水の実験から、1981年には市内全域に対して公平で円滑な蛇口給水を行うための施策として水管理センターの運用を開始しました。このシステムにつきましては、明日の午後、見学していただくようになっていますので、ここでは簡単に説明します。このシステムの目的は、市内を21ブロックに分割し、各ブロックごとに常に変動する需要に応じて適正な水圧に調整し、均衡給水を図るというものです。福岡市には多くの水源がありますが、水管理センターの運用により各浄水場間の配水の相互融通を可能にして流量調整を図ることができています。また、配水管に設置している水圧計による水圧の異常低下、あるいは同じように流量計の異常増加等による破損事故の早期発見・早期対応も行うことができます。それから、電動弁の操作により必要以上の水圧を制御することで漏水防止にも大変役立っています。

他にも、配水管は古くなると破損し、漏水したり、さびが原因で濁り水等が発生し、安定給水を阻害する危険性がありますので、1965年から配水管整備事業として古くなった配水管の取り替えを計画的に進めています。

これらを実施することで、相乗効果により漏水量が大きく減少し、1998年には、有効率は97.1%となり水の有効利用に大変役立っています。

節水施策としては、節水コマや節水便器等の節水機器の普及、雑用水道の普及促進、下水処理水の再利用、それから料金の逦増制、つまり使用水量が多くなるほど1m³あたりの単価が高くなる節水型の料金体系をとっています。

以上のように、水資源に乏しい福岡市においては、これら節水型都市づくりを進めるため、様々な施策に取り組んでいるところです。簡単ですが福岡市の概要を報告させていただきました。

座長（小田弘登） ありがとうございます。福岡市の水道の現状についての報告でした。それでは他にございませんか。自由なお話で結構ですので、ぜひお願いします。

李舜衡（釜山広域市） 釜山広域市の李舜衡と申します。釜山市は人口が400万人で、面積は750km²で大都市です。浄水能力としては、現在、施設能力が250万m³で実際の平均浄水は、1日150万m³程度です。1人あたりの給水量は1日約380ℓで、何の支障もなく水の供給を行っています。また、大型浄水場を3か所に持っています。しかし、釜山市の大きな問題は、水源の水質の状態がたいへん悪いということです。釜山市は、川の延長が525kmにもなる長い川の最下流で取水しています。ですから、上流地域の生活污水とか農業、畜産、工場廃水等が一部放流されているため、取水地点の水質は最悪の状態を示しています。例えば5年前には、水質がBODで6～7mg/ℓで、水道水源の良質基準をかなり越えていました。このような原水の水質悪化のため、釜山市では高度浄水処理施設を計画し建設してきました。今から10年前に、韓国では初めて釜山市にオゾン処理施設を導入し、5年前には粒状活性炭処理施設を設置したことで、現在は高度浄水処理施設を備えています。これにより現在の浄水水質は全て安全基準値内にあり、かつそれを維持していますが、それでも市民には原水に対する不信感があり、水道水の飲用率は40%以下になっています。したがって今後は、いかにしてきれいな原水を確保するかが最大の課題となっています。よりきれいな原水を確保できる上流側にダムを建設して長い導水管により原水を確保する方法等、現在様々な対策を講じています。以上、簡単に釜山市の水道について申し上げました。ありがとうございます。

座長（小田弘登） どうもありがとうございます。釜山市の水道の現状、特に原水の水質悪化が大きな問題であるということでした。

それでは第1回都市サミット開催時から参加していただいております国連経済社会局の米川さんに過去の都市サミットや実務者会議を通しての感想、ご意見などをお願いしたいと思います。

米川佳伸（国際連合） ありがとうございます、座長。私は、第1回都市サミットから参加させていただいておりますので、まず初めに事務局の皆さんに御礼申し上げたいと思います。どうもありがとうございます。

第1回より毎回このサミットが変化してきているということ、前回の会議でも私の感想として申し上げましたが、テーマだけではなく、1つのネットワークができ上がってきている。それから今日、特に申し上げたいことは広がりということです。ここで大変有意義な議論が行われ、これだけで終わらず、もっと他に会議の成果が広がっているという点です。

その1つの例は、今朝、福岡市の村上国際部長からお話がありました。交流から協力へ、いわゆる情報交換や意見交換をするだけでなく、具体的な活動、技術協力についての活動が既に始まっている。これはハビタットを通してということだったと思いますが、特に環境のごみ処理の問題についての協力が始まっている。これもこの会議の1つの成果ではないかと思えます。これからもぜひ協力の部分も視野に入れて、この会議が発展していかれることを期待したいと思います。

それから、私どもの活動に、ここでできたネットワークを使わせていただいておりますので、それをご紹介したいと思います。例えば、今年の5月にバンコク市において、バンコク市と私ども国連の

本部、ESCAP、日本の名古屋にある国連地域開発センターと一緒に技術協力についてのワークショップを行いました。テーマはアジアの金融危機です。経済危機が原因で大変な社会問題が起きているが、それを中央政府だけではなくて地方自治体がどのように対処しているかということについてでした。まず、バンコク市と私どもが共催で行うことになったきっかけですが、それがこの「アジア太平洋都市サミット」でした。この会議でバンコク市の方と知り合ったことが始まりだったのです。そして、都市サミットの幾つかの参加都市に声をかけましたところ、福岡市や釜山市からもご参加いただき、大変熱心な討議が行われました。

来年6月にはジュネーブで国連総会の特別会議が開かれます。これは、1995年に開かれた社会開発サミットのフォローアップの会議で、我々はそのでの報告を準備中なのですが、その中にバンコク市での会議結果を組み入れていきたいと思っています。このようなことも、この会議の副産物としてありますので、今後ともぜひよろしくおつき合いいただきたいと思っています。

来年5月には、釜山広域市で4回目の都市サミットが開かれると伺っておりますが、ぜひその準備の中に、このような事例のことも考慮して反映していただければと思います。

座長（小田弘登） 米川さん、どうもありがとうございます。この会議をこの場だけでなく、さらに広がりを持たせたネットワークをつくっていく、交流から技術協力へと広げていただきたいというお話でした。どうもありがとうございました。

モハマド・アサリ・ビン・ダウ（クアラルンプール市） クアラルンプールのアサリと申します。わが国の需要管理について手短かにご紹介したいと思います。ADBの報告ではマレーシアの無収率は36%だったと思います。100%の検針にも拘わらず、つまり全ての敷地内にメーターがあるにも拘わらず、まだ無収水量が多いのです。おそらく原因は古いアスベストセメント管（AC管）だと思われます。1960年代、70年代に敷設されたもので、ひどい水漏れが見つかっています。過去にAC管が選ばれたのは低コストのためでした。当時、政府の政策はきれいな水をできるだけたくさん供給すること、つまり給水区域の拡大でした。そこで、今は配水管の取り替えを始め、無収水量対策に取り組んでいます。

その他、水漏れ逋減のため、配管ポイント、接続部の取り替えも実施しています。そこで、特に国連のハビタット、DESA、またJICAなどの機関からのフィードバックを望んでいることがあります。それは研修です。私は1993年にとても優れたスイス政府の現地研修を受けました。スイス政府はその年に浄水および浄水場の更新に関する現地研修を行いました。これがマレーシアの水質改善に非常に大きな影響を与えたのです。特に浄水工程での設備装置がそれまで設置されていなかったこと、あるいは正しく設置されていなかったこと、不純物という新たな問題に対処できていなかったことなどが実際に分かったのです。ですから、現地研修を受けると同時に、その研修を通して多くの問題を解決することができたのです。

また、JICAにお礼申し上げます。1996年だったと思いますが、私は宮沢氏と共に現地研修として、浄水場の改善を図るため運動開始後の浄水場を見て国中を回りました。建設後にその設計を見直すのです。実際にマレーシアのような国に恩恵を与えるのはこういう協力と技術移転であると考えます。その様な協力をこれからも楽しみにしております。ありがとうございました。

座長（小田弘登） クアラルンプール市のアサリさん、どうもありがとうございました。

山本敬子（国際協力事業団） トレーニングについての JICA の活動をご報告したいと思います。国際協力事業団、日本の ODA はこれまで水道部門の主に施設をつくることに重点を置いていましたが、ここ数年間は施設を引き渡した後の維持管理がなかなかうまくいかず、施設をつくるだけではプロジェクトは完成しないのではないかという反省が語られていました。よって、その反省も含めて、トレーニングに重点を置こうということになりました。例に挙げると、バンコクにトレーニングセンターをつくり協力してきました。インドネシアにも5年間の協力がありました。現在はエジプトのカイロでもトレーニングセンターにおいて協力しています。それから、今スタートしたばかりなのがホーチミン市です。建設省傘下の建設第二大学校での訓練センターへの技術協力ということでスタートしています。

このように訓練センターを通じて、維持管理を強化するための技術移転という方向で JICA も協力を行っています。その中でも、特にタイの NWTTI という訓練センターで育った人たちが、今度はリージョナル・コーポレーションとして近隣諸国に教えに行く、協力に行く、または訓練を引き受けて近隣の方々のトレーニングをするというようなプログラムもでき上がっています。

それから、非常に興味深い点をお話しします。タイのトレーニングセンターの日本のスタッフは8月末に引き揚げる直前に、単に訓練センターでの訓練だけでなく、実際に地方の中小都市の浄水場に行き、処理プロセスの何が問題なのかを分析し、そこの浄水場のスタッフとともに改善策を考えて改善してきたというパイロット的なプロジェクトも行いました。教室での指導、つくられたものの中での実地訓練、さらに実際に出かけてそれを応用した問題解決を行うという3段階のプロセスをタイでは行っています。

一方で、日本にもたくさん研修生を呼んで研修していますが、実際に戻られて効果が出ているかどうかということについては、今後、各国の皆さん方の評価を待つということになります。以上、活動をここで報告させていただきます。

座長（小田弘登） どうもありがとうございました。他にございませんか。

姜雄城（大連市） 大連市の水の供給について簡単にご紹介いたします。まずこの機会をお借りして座長ならびに関係者の皆様に感謝申し上げます。

私ども大連市は、百年をかけて発展してきた新しいタイプの都市です。給水人口は220万人、7つの行政区があり、面積は200km²あまりです。特に中国が改革開放政策を実行して以来、都市建設のスピードも上がり、80年代から現在にいたるまで新型の都市として発展をみました。都市の水需要を満たすため、市は導水工事と節水に力を入れてきました。大連市の水供給は1879年から開始され、現在まで120年の歴史があります。施設は、9ダム、9浄水場、水道管延長3,380km、給水能力は1日120万m³です。1日の実際の給水量は90万m³に達しています。大連市は水不足の都市で、降雨量は比較的少なく、年間600mmも達しません。1人あたりの水の賦存量は全国の4分の1であり、深刻な水不足都市の1つです。

また、私どもの給水システムは比較的古く取り替えが必要な水道管とポンプが多いため、その作業量は非常に大きなものとなっています。この水資源と施設老朽化の問題を解決するため、70年代に政

府は都市発展のための明確な規定を策定しました。その1つは水源開発です。大連市から150km離れた碧流河ダムからの導水工事は、17年の工期と30数億人民元の投資を行って、100万㎡の導水を実現しました。1997年に、本市の給水能力を120万㎡に到達させたこの巨大なプロジェクトは完成し、大連市に水を送ることができるようになりました。

次に節水の問題です。大連市は水が不足しているため、節水型都市を作る目標を立てました。1993年大連市で国連の国際節水会議が行われ、大連提議書が発表されました。その後、大連市では続々と節水に関する法規が定められ、浄水器などの普及や節水関連の措置が強制的に広められました。その結果、水の使用量は市の発展に見合うものとなり、需要水量を有効に抑制することができました。

また、市は環境保護にも力を入れているところです。特に私どもの薄熙来第四浄水場は今年ハビタットから表彰を受けました。ここ数年の都市整備は非常に進み、緑化面積は800万㎡以上に達しています。また工業用水の使用量が大きい環境汚染型企業は移転を行い、水源地の保護や法規の整備、水源地の住民の転居に対しても相応の措置を取り、大連市の限りある水資源が科学的合理的に利用されるようになりました。安全な水の供給を保証して都市発展の需要を満たすという役割を果たすため、今後私ども大連市はこの会議の精神に則り、水に関する仕事をさらにきちんとして、近代都市建設のために努力する所存です。以上です。ありがとうございました。

座長（小田弘登） どうもありがとうございました。大連市からは水の供給の現状について紹介していただきました。では、時間になりましたので、以上をもちまして自由討議を終了させていただきます。

次に会議の総括を、国際協力事業団の山本専門員に行っていただきますが、会議運営上、ここで15分間の休憩をとりたいと思います。15分後に再開いたしますので、よろしく願いいたします。

----- 休 憩 -----

会議総括

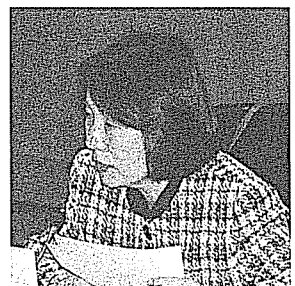
国際協力事業団 国際協力専門員 山本敬子

座長（小田弘登） それでは会議を再開いたします。

本日の会議の総括を国際協力事業団の山本専門員をお願いいたします。山本専門員の経歴につきましては、お手元の資料がございますので省略させていただきます。それでは山本専門員、よろしく願いします。

山本敬子（国際協力事業団） 今、ご紹介にあずかりました国際協力事業団の山本と申します。専門員として、水道部門の様々な技術的アドバイスや調査を国際協力事業団の事業の中で行っています。皆さん、遠いところから来られて熱心に討議され、ご苦労さまでした。最後の総括を、僭越ながら行いたいと思います。

今回は『安全な水道水の供給』についての実務者レベルでの会議というこ



とで、より突っ込んだ形での情報が出てきたかと思えます。

まず最初の印象ですが、それぞれの都市が抱えている問題も都市の性格も経済レベルも違うということからの発表ではありましたが、出てきた問題解決策は非常に似ていて、お互い有益な情報を得たのではないかと思います。

最初に報告されましたシンガポールでは、まず何と言っても、島国であることから水源に問題があるということでした。水源が限られており、半分はマレーシアから供給を受けているという現状の中、保全地域から非保全地域まで取水地域を拡大せざるを得ない中で、悪い水質をどのように高度処理し、安全なものに変えて配水するか非常に気を使っておられました。さらには、住居等移して保全を完成させていくなどの努力もされているという報告でした。もちろん節水教育、水利用の教育もかなり徹底して行われているという印象も受けました。

2番目の上海市ですが、原水水質の変動が非常に激しくて安定した水質確保が難しい、特に従事者が過重労働になり、過剰な薬品注入をしてしまっていた。そこで、薬品注入システムにおけるファジー制御を取り入れて、様々な原水濁度、pH、水温、水量の変動に対して、最終処理された濁度を安定させる。このことによって効果的な制御ができたという報告がありました。これは非常に興味のあるところかと思えます。薬品注入量も減少し経済効果も出たということでした。さらに、これは他の浄水場にも広げられるだろうという自信を持った発言もされていました。

次に北九州市ですが、福岡市とは違い水源が非常に豊富である。様々な水源があり、きれいな水でいまだに緩速ろ過を使っているところもある。塩素処理だけで済んでいる水源もあれば、近年どんどん汚濁が進んでいるものもある。そこで、それぞれ異なる水源への対策を考えておられました。とても興味深い話でしたが、その中でも特に貯水池の藻類が増加することに対して空気揚水筒という成層を壊す方法を行っておられます。大連市の方から質問も出ましたが、この方法は技術情報の交換が直接的にできるものだと思います。日本では全国的に広がっている非常に経済的なもので、しかもとても広い貯水池の中で効果的に成層を壊して藻類の増殖と底層部の嫌気性を破る方法として知られています。このような情報が問題を抱えている都市に行き渡り技術が広がって行くことを期待します。

そしてユニークな水質管理として、職員を使って末端給水栓の水質管理をしているとの報告もありました。さらにNGOの川口さんからもお話がありましたが、結局、水質保全にはNGOなり住民の方の協力が一番効果をあらわすのではないかと思います、いい事例を紹介していただいたと思います。

それからホーチミン市です。今は施設の整備に重点が置かれ、これから水質管理に重点が移っていくように思いました。また、民営化を行い、民間資金を得て拡張整備をしていく中で重要なことは、水質をだれが保証するのかということです。各自治体がきちんとそれを監視する能力を分析し、そして、それをモニタリングして安全な水質が行き渡る能力をつけて民間を監視していかなければならないと思います。そのような技術協力は、この都市サミットの中で行えるのではないかと思います。

全体を通してですが、限られた水源の中で増え続ける汚染物質にどう対処していくか、一方では、ますます処理を高度化させていい水を得ようとする。しかし、そのようなことには限界があると、先ほど内海先生が基調講演で言われていました。6万種に及ぶ化学物質が毎日どんどん生産されているが、今現在、水道分野でチェックできるのは僅か50~60である。結局、出てくる汚染物質に対しては、技術力でカバーするには限界が常にあり、遠回りのようですが、水質保全に目を向けざるを得ないのではないかと思います。

国連ハビタットの報告からは、節水と水質保全が今後の重要なテーマになっていくだろうと感じました。特に節水に関しては、今回、いろいろな事例が紹介されました。すぐ使えるもの、これから皆さんと協議し、実践して改善されていくもの、新しく開発されるものなど、いろいろあると思いますが、節水にしても、水質保全にしても、住民及びNGO、NPOの協力なくしては進まないということが今回のこの会議の中で印象に残ったことです。

非常に雑駁な総括になりましたが、これで私の会議総括にかえたいと思います。ありがとうございました。

座長（小田弘登） 山本専門員、ありがとうございました。

サミット事務局総括

座長（小田弘登） 続きまして、アジア太平洋都市サミット事務局長の方から、来年、釜山広域市で開催されます第4回アジア太平洋都市サミットにおいて、本日の実務者会議をどのような内容で報告するか、まとめていただきます。

村上廣志（サミット事務局長） 皆様、大変お疲れさまでございました。無事、「第3回実務者会議」を大変有意義なものとしてとり行うことができました。この場をお借りして厚くお礼申し上げたいと思います。

特に事例発表をいただきました4都市の方々には、大変参考となる貴重な事例を詳細なデータに基づき提供いただき、誠にありがとうございます。

また、発表者のみならず真剣かつ活発に討論をされ、議論を深められました参加者の皆様方につきましても心から感謝申し上げたいと思います。

そして九州大学大学院の内海教授、国連の米川経済社会局計画調整官、人間居住センター（ハビタット）のアラバスター氏、国際協力事業団の山本国際協力専門員、そして「はかた夢松原の会」代表の川口道子さん、それぞれの立場に立ったご意見や助言等をいただき、ありがとうございました。多くの方々のご支援を受けまして、意義深い実務者会議になったのではないかと思います。

今日、1日ばかりでの会議ではでしたが、十分な意見交換ができなかった方もおられるかもしれません。この後開催されますレセプションや明日のフィールドワーク等での意見交換や情報交換の機会もございますので、補っていただきますようお願い申し上げます。

さて、座長からも紹介がありましたとおり来年の5月13日から15日に「第4回アジア太平洋都市サミット」が釜山広域市で開催されることになっております。本日のコーヒブレイクの際には、釜山広域市の第4回アジア太平洋都市サミット事務局の方から関係資料と記念品が皆様のお席に配られていたかと思います。来年の5月には、皆様方の市長をはじめ代表の方々が釜山広域市での会議にご参加されることを期待したいと思います。

さて、「第4回アジア太平洋都市サミット」の席におきましては、本日の会議内容を報告する必要があります。詳細についてはお任せいただきたいと思います。次の3点につきまして確認させていただきます。

まず1番目でございます。10か国・地域，18都市から37人の実務者の参加を得まして，シンガポール，上海市，北九州市，ホーチミン市の4都市から事例発表を行っていただき，これを通じて参加都市相互の理解を深めることができ，活発な意見交換とともに多くの情報が交換されたこと。

2番目に，九州大学，国際連合，国際協力事業団，市民ボランティア団体からも参加をいただき，それぞれの立場からの確なる助言等を受け，内容的に充実した意義深い会議が行われたこと。

3番目に，「安全な水道水の供給」に関する実態は，都市によって様々であります，この取り組みには人材の育成と都市間ネットワークの充実が重要であり，この会議で得た成果については，積極的に都市行政に反映していきたいとの共通認識に至ったこと。

以上のことについて第4回の都市サミットに報告したいと思いますが，皆様いかがでしょうか。

(拍手)

ありがとうございます。それではそのように報告をさせていただきます。

閉会

座長（小田弘登） これをもちまして，「アジア太平洋都市サミット・第3回実務者会議」を終了させていただきます。本日のこの実務者会議を契機としまして，参加都市相互の水道事業全般にわたる活発な情報交換が今後続けられることを祈念いたします。

本日は早朝より長時間にわたり，会議の進行にご協力いただきまして，誠にありがとうございます。明日と明後日は福岡市水道局の水質試験所，水管理センター並びに浄水場をご覧いただくことになっております。本日はどうもありがとうございました。